



得意のヘディングで競り合う巻。秋田監督曰く「巻のプレースタイルは(大学時代と)変わらない」という(岩田陽一撮影)

千葉のクラブハウスに巻を激励に訪れた佐久間忠義市原市長(左)と記念撮影(川崎篤彦撮影)



駒大時代の巻(左)と深井(現鹿島)「大学最強2トップ」  
として4年次は2人で51得点、23アシストという驚異的な  
数字を記録した

## 巻 誠一郎 コメント

「発表されたときはビックリした。少ないながら可能性があったので、それを信じていた。(ジーコに)ゴール前のプレーや諦めない気持ちが評価されたと思う。呼ばれたときは興奮したが、すぐに冷静になって、次に何をすべきかを考えた。ワールドカップは子供の頃からの夢。試合に出られるようにアピールしたいが、それよりもチームが勝つことが目標。全試合勝てるようにすることが日の丸を付ける選手の最低限の心構えだと思う。海外組は初めてなので、色々な選手のプレーをみて、うまく試合で合わせられるようにしたい。弟からはメールが入っていた。今は忙しくてほとんど電話は出られてない。秋田監督にも電話は掛けているし、かかってきてもいるがなかなか繋がらない。深井にもメールはしたが、入れ違っている。背番号は高校、大学は9を付けていた。18にも愛着もあるが、特にこだわりはない。番号でサッカーをしているわけではないので。(23人に)選ばれたからには、しっかりプレーで表現しないとイケないと思う。コミュニケーションとって、(プレーを)しっかりとやるという義務が自分にはあると思う。「利き足は頭」で決めたいと思う。落ちた人のためにしっかりプレーしたい。選ばれただけでは意味がない」



## 巻 佑樹

「兄弟なのでうれしい。部屋で見ましたテレビで。連絡は取ってないです。おめでとうと言ってあげたいです。次は俺もという気持ちが出てきました。国を代表して出るので日本の為に頑張ってほしいです」



## ビチャオシム(千葉監督)

「今一番幸福なのは巻だということ。巻が幸福であることによって周りが幸福になれる。(選ばれたのは)巻が3年間努力していたからこそ。だから開かれた道である。日本のサッカー界にとってすごくよかったのは、巻というのは典型的な例でいえば一生懸命頑張った人間が選ばれたという、すごくいい例だと思う」



## 秋田浩一監督

「(巻の代表入りは)嬉しい。大学時代からまじめだった。あまり話をしなかったが、責任感は強かった。(プレースタイルは)ボールの貰い方などは、大学時代とあまり変わっていない。(日本代表は)テクニック重視だから、気持ちで戦う選手が選ばれるのはうれしく思う。全力でやる選手が(代表に)選ばれるのは今の学生にとって励みになる」



練習前にもかかわらず、サポーターの一人ひとりに丁寧に応じる巻

